

< 学会レポート >

第46回日本医事法学会総会

丸山 英二（神戸大学）

第46回日本医事法学会総会は、2016年11月19日（土）～20日（日）に明治大学駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催された。以下、その内容を紹介するが、叙述の繁簡宜しきを得ていない点、あらかじめお詫びしておきたい。

初日の11月19日は、午後、ワークショップAおよびワークショップBが開催された。ワークショップAでは、「小児医療における意思決定」のテーマについて、「企画の趣旨と背景」（掛江直子・国立成育医療研究センター）、「医療の立場から」（加部一彦・埼玉医科大学）、「法律の立場から」（横野恵・早稲田大学）の報告が、ワークショップBでは、「医事法と経済」のテーマについて、「医療保険財政と自律支援」（古城隆雄・自治医科大学）、「診療報酬と保険診療」（石田道彦・金沢大学）、「超高額薬剤への対応について」（印南一路・慶應義塾大学）の報告があり、その後、フロアとのディスカッションがもたれた。

ワークショップのあと、ワークショップ会場から少し歩いて、明治大学紫紺館6階のラウンジ明治において、懇親会が開かれた。今回の総会は、大会長の鈴木利廣教授および実行委員長の清水真教授の周到な準備と手配のもと、開催校の教員・学生さんなどの協力を得て開催されたものであったが、懇親会の際も、行き届いた配慮と心尽しのご馳走をはさんで久闊を叙し、歓談を楽しんだ。

翌11月20日は、9時からの総会で始まった。報告事項のあと、編集委員会報告、会計報告、予算案の提案、などの議題について、説明後、了承された。また、2017年11月に立命館大学で開かれる予定の第47回大会について報告された。

9時40分からの個別報告では、A会場で、「透明性ガイドラインに関する最近の世界の動きと日本の課題」（小島克己・サノフィ株式会社）、「医療廃棄物の法的課題——医療廃棄物の排出主体と廃棄責任の関係」（長島光一・帝京大学）、「保険薬局における疑義照会の実態調査と法制度の問題点」（十万佐知子・武庫川女子大学）、B会場で、「カンファレンス尋問～カンファレンス鑑定や書面鑑定を超えて～」（平野哲郎・立命館大学）、「医療事故訴訟における慰謝料算定をめぐる諸問題－我が国及びドイツの近時の判例分析を手がかりとして」（山下登・岡山大学）、「生殖医療に対する法規制と生殖ツーリズム—フランスの最近の動向」（小門穂・大阪大学）の報告と質疑が行われた。

個別報告のあと、ワークショップC「医と法の対話～年報医事法学判決紹介の4年」（川崎富夫・健康医学研究所、越後純子・虎の門病院、橋公一・星ヶ丘医療センター、戸田宏一・大阪大学）では、

経皮的冠動脈形成術（P C I）施行後の心筋梗塞死亡事件（横浜地判平成 25・9・25）とエバーハート治験患者死亡事件（東京地判平成 26・2・20）について、医と法、それぞれの立場からの見解が示され、非常に有益であった。

2日目午後は、シンポジウム「医療事故調査制度について」が開かれ、下記の報告と総合討論が行われた。

1. 「医療事故調査制度」～成立の経緯、現況、問題点～（木村壯介・日本医療安全調査機構）
2. 院内医療事故調査委員会に求められること（上田裕一・奈良県総合医療センター）
3. 医療事故調査等支援団体の立場から（今村定臣・日本医師会）
4. 医療事故調査制度の問題点と被害者がなし得る事（宮脇正和・医療過誤原告の会）
5. 医療事故調査制度の比較法的考察（我妻学・首都大学東京）

各テーマに関する第一人者による報告は内容が豊かで有益なものであったが、報告が予定時間を大幅に超過し、討論にあてる時間が厳しかったことが残念であった。